



議 長	副議長	局 長	課長	主幹	係長	係 員

行政視察報告書

令和 7 年 5 月 7 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 斎藤 信 ⑨

議員 太本 邦光 ⑨

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】兵庫県淡路市

住 所	兵庫県淡路市野島常盤 1510-4		
電 話	050-3684-4245		
視察案件	農業と街づくり及び臭気対策		
期 日	令和 7 年 5 月 1 日 (木) 13時から15時30分 まで		
応 対 者	株式会社パソナ農援隊 代表取締役田中康輔 等		
視察状況	別紙写真のとおり		
訪問施設	パソナ農家レストラン陽燦燦 (はるさんさん)		
概 要	別紙参照		
添付書類	視察資料	視察状況写真	名刺

(個人行政視察用)

【2】淡路市

住 所	○のじまスコーラ：淡路市野島墓浦 543 ○ホテル SAKIA：淡路島尾崎 1798
電 話	下記記載
視察案件	廃校校舎跡地利用施設見学
期 日	令和 7 年 5 月 2 日（木）10 時 30 分から 12 時 00 分 まで
応 対 者	自由見学
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	のじまスコーラ 0799-82-1820 ホテル SAKIA 0799-70-9080
概 要	別紙参照
添付書類	視察資料 視察状況写真 一名刺

【3】香川県高松市

住 所	香川県高松市西植田町 4532
電 話	080-1623-7772
視察案件	オリーブ生産における農業生産法人の活動について
期 日	令和 7 年 5 月 2 日（金）14 時から 15 時まで
応 対 者	オキオリーブ代表園主 燐敬夫 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	農業生産法人オキオリーブ
概 要	別紙参照
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

施設名：陽燦燦（はるさんさん）

1. 視察目的

本視察は、株式会社パソナグループが淡路島で展開する「食と農による地方創生」事業の一環として整備された農家レストラン「陽燦燦」を訪れ、農業振興・地域活性化・食育・観光振興の融合的取組を学び、今後の行政施策の参考とすることを目的とした。

2. 施設概要

運営主体：株式会社パソナグループ

開業：2022年3月

構成：

メイン棟：レストランスペース（80席超）、キッチン、直売所、ガーデンテラス

屋外：田畑・ハーブガーデン・季節の花畑・ファーマーズパーク・農業体験付き宿泊施設を建設中。

特徴：完全予約制の農家レストラン、地産地消を体現した“体験する農園レストラン”

3. 整備の背景

陽燦燦は、「農」や「自然」に触れながら食のありがたさや命の循環を実感する場として、パソナグループが淡路市内に整備した農業体験型レストランである。

背景には、地方創生・農業振興・都市住民との交流促進といった複数の課題があり、それらを食・農・教育で横断的に解決するための拠点として企画された。

4. 特徴的な取組

- ・料理はすべて淡路島産の旬の野菜や食材を使用
- ・メニューはシェフと農家が連携し毎月更新される「季節の農園コース」
- ・直売所では収穫体験ができ、採れたて野菜をその場で購入可能
- ・ファーマーズパークでは親子向けの農作業体験や食育イベントを定期開催
- ・建物は木造平屋づくりで、自然と調和した景観設計

5. 地域連携と効果

- ・地域農業者との契約栽培・販路拡大による農業所得向上
- ・観光客や都市部のファミリー層の誘致による交流人口の増加
- ・子どもや若者への「食と農の教育」実践
- ・農福連携を視野に入れた雇用創出と地域福祉との接続

6. 所感・今後の示唆

陽燦燦の事例は、農業・観光・福祉・教育の多分野を横断する「地方創生の複合モデル」として非常に示唆に富む内容であった。特に、“体験を通じて地域の食と命のつながりを実感させる場づくり”の姿勢は、地域の持続可能性を高める好例である。

今後、当自治体でも地域農業の振興と教育、観光との融合を図る施策において、

体験型・参加型の拠点整備

地産地消のブランド化

地元農家との連携体制づくり

といった視点を取り入れることが重要であると認識した。

以上

施設名：のじまスコーラ (Nojima Scuola)

1. 視察目的

本視察は、廃校となった旧野島小学校をリノベーションし、地域の農業振興・観光交流・飲食・福祉・教育を結びつけた複合施設「のじまスコーラ」の取り組みを調査し、地域活性化・廃校利活用における先進事例として今後の行政施策の参考とすることを目的とした。

2. 施設概要

運営主体：株式会社パソナグループ

開業：2012 年

構成：

1 階：マルシェ（地元野菜・加工品販売）、ベーカリー&カフェ「スコーラ」、のじま動物園（ヤギ、羊、ミニブタなど）

2 階：レストラン「リストランテ・スコーラ」、テラス席・パーティスペース

屋外：体験型農園、こども交流スペース

3. 整備の背景

旧野島小学校は 2009 年に閉校。その後、地域の賑わい再生と観光産業の振興を目的として、パソナグループが主導するプロジェクトにより、2012 年に「のじまスコーラ」として再生された。

単なる商業施設ではなく、地域農業の支援、若者の雇用創出、移住促進、地域内循環型経済の構築を目指し、廃校施設を活用した複合施設として整備が行われた。

4. 特徴的な取組

- ・地元農産物を活用したレストラン運営と農産品販売
- ・学校の面影を残した建物デザインと教室空間活用
- ・家族連れや観光客向けに動物ふれあいコーナーを設置
- ・農業体験・料理教室・ワークショップ等を通じた地域教育活動
- ・都市と農村をつなぐ「食育」・「職育」拠点としての役割

5. 地域連携と効果

- ・地元農家や加工業者との連携強化による販路拡大
- ・都市住民との交流促進による移住・定住支援効果
- ・子育て世帯の来訪促進と地域コミュニティの再構築
- ・休校施設の維持コストを新たな収益で補填するモデル

6. 所感・今後の示唆

のじまスコーラの事例は、地域資源を活かした交流拠点形成と、多世代にわたる市民参加型施設運営という点で非常に優れたモデルである。特に農業・観光・福祉・教育の横断的な連携によって、地域の内発的な活力を引き出している点が印象的であった。今後、我が自治体においても、休眠施設の利活用を進める際は、

産業振興と社会福祉の両立

地域教育・人材育成機能の付加

市民参画による持続可能な仕組みづくり

といった観点を大切にしたい。

以上

施設名：SAKIA（サキア）

1. 視察目的

本視察は、廃校となった旧尾崎小学校をリノベーションし、宿泊施設・飲食・コワーキング・地域交流機能を備えた複合施設として再生された事例「SAKIA」を調査し、地域活性化・廃校利活用の今後の行政施策への参考とすることを目的とした。

2. 施設概要

運営主体：株式会社バルニバービ（大阪市）

開業：2024年4月25日

構成：

1階：地域向けレストラン「オサキ食堂カフェテラス」、ベーカリー「しまのねこ」、こども図書館「KODOMONO」

2階：宿泊施設「SAKIA STAY」全14室、共用サウナ、ラウンジ、パウダールームなど

3階：コワーキングスペース「サトヤマデスク」

3. 整備の背景

旧尾崎小学校は2014年に閉校。その後、地域資源の利活用および人口減少対策の一環として、内閣府「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生テレワーク型）」を活用したリノベーション事業としてSAKIAプロジェクトが立ち上げられた。

株式会社バルニバービが地域との協働を軸に企画・運営を担い、「食から始まる地方創再生」のコンセプトのもと、外部人材・企業との交流拠点を目指して整備が進められた。

4. 特徴的な取組

- ・廃校の教室を活用した宿泊室（スタンダード9室／ビジネスタイプ5室）
- ・地域住民向けカフェ・ベーカリーと観光客の共存空間
- ・図書館を併設した子ども支援スペースの設置
- ・地域食材を活かした飲食提供、地元雇用の創出
- ・3階には高速通信・テレワーク対応のコワーキング空間を整備

5. 地域連携と効果

- ・地域イベント「サキア祭」等を通じた地域交流とにぎわい創出
- ・地域住民と移住者・企業・観光客の混在による新たなコミュニティ形成
- ・地元食材を使った飲食提供による農業・漁業支援
- ・教育資源（図書・学びの場）としても機能

6. 所感・今後の示唆

SAKIAの事例は、廃校施設の利活用、民間連携、地域との共創という3点において非常に優れた先進モデルである。特に「教育・福祉・観光・産業」の複合活用によって施設の稼働率と地域波及効果を高めている点は、我が自治体においても応用可能であると感じた。

今後、空き施設を活用した拠点整備を検討する際には、

民間の柔軟な発想との協働

地域住民の巻き込み

多世代・多用途の共存設計

といった視点が必要であると改めて認識した。

以上

施設名：OKI OLIVE（オキオリーブ）

1. 視察目的

本視察は、小豆島にてオリーブ栽培・加工・商品開発・観光体験などを一体的に展開する「オキオリーブ」の取組を通じて、6次産業化・農業振興・地域ブランドの形成の好事例を学び、今後の地域経済活性化施策の参考とすることを目的とした。

2. 施設概要

運営主体：株式会社オキオリーブ

設立：2013年

主な事業内容：

オリーブの有機栽培（無農薬・自然栽培）

自社搾油によるエクストラバージンオリーブオイル製造

オリーブ加工品の企画・販売（石けん、ドレッシング、ピクルス等）

オリーブ農園体験、収穫・搾油ツアーの開催

3. 整備の背景

小豆島は日本のオリーブ栽培発祥の地として知られているが、後継者不足や農業従事者の高齢化といった課題を抱えていた。オキオリーブは、「暮らしに根ざしたオリーブづくり」を掲げ、自然栽培と6次産業化による持続可能な地域農業の再生を目指し、活動を開始した。地域資源であるオリーブの価値を最大限に活かし、「農」と「暮らし」を結ぶライフスタイル提案型のビジネスモデルを構築している。

4. 特徴的な取組

- ・有機無農薬でのオリーブ栽培、自然循環型農法の実践
- ・小規模ロットでの自社搾油・鮮度重視の製品化

- ・ エシカル・サステナブルを意識した商品開発とパッケージデザイン
- ・ 農園体験やオリーブの収穫・搾油見学など観光型農業の推進
- ・ 地域内外の若者や移住者の受け入れによる農業の担い手育成

5. 地域連携と効果

- ・ 地元農家や加工業者との連携強化による商品多様化
- ・ 観光との連携で交流人口増加、リピーター客の創出
- ・ 地元学校との食育・環境教育連携
- ・ 小豆島全体のオリーブブランド力の向上

6. 所感・今後の示唆

オキオリーブの事例は、農業の6次産業化、観光振興、地域ブランドづくりを一体化したモデルとして高く評価できる。単なる生産・販売ではなく、「物語」と「体験」を軸に展開する姿勢は、地域経済の持続可能な発展に大きなヒントを与える。

今後、我が自治体においても、

地域資源を活用した高付加価値型農業の展開

観光との連携による地域ブランド強化

若者・移住者との協働による農業後継者育成

など、地域の特色を活かした施策の実践が重要であると感じた。

以上